

お客さまに良質で低廉な電気を安定的にお届けするため、さまざまな電源をバランスよく組み合わせた電源構成をめざします。

安定した電力供給のために、安定したエネルギー資源の確保に取り組んでいます。

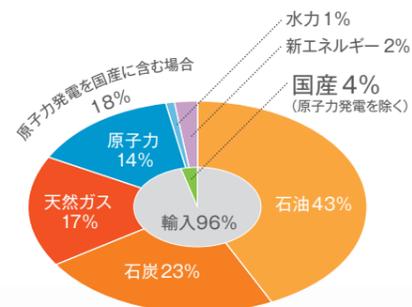
電気の安定供給に向けて、エネルギーセキュリティが大切です。

バランスのよい電源構成の組合せをめざします。

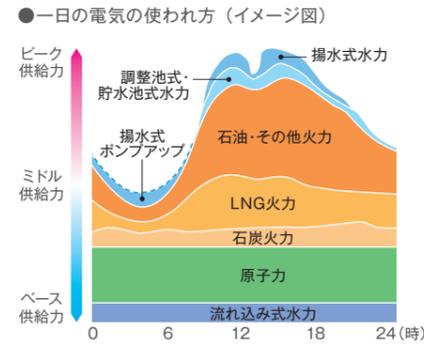
エネルギー自給率が4%しかなく、エネルギー資源を海外からの輸入に依存する日本にとって、電気の安定供給に向け、エネルギーセキュリティ(安定的なエネルギー源の確保)は、今後ますます大切になっていきます。

関西電力では、安全確保を大前提に、特定の資源に偏ることのない、多様なエネルギー源の確保に加えて、地球環境問題への対応や経済性の面などを総合的に勘案し、原子力発電、火力発電、水力発電などをバランスよく組み合わせた電源構成をめざします。

●輸入に依存する日本の一次エネルギー



出典: OECD「ENERGY BALANCES」(2010Edition)
 ※石油、石炭、天然ガスの中に国産が合計で約1%含まれています。
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。



経済性や地域バランスを考慮しながら、原子燃料を安定的に調達していきます。

昨今のウランおよび濃縮業務市況は、新興国の需要増加等による価格上昇要因がある一方で、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響等による下落要因があり、先行きが不透明な状況です。関西電力は、こうした環境を踏まえ、原子力発電の安定性・経済性を高める観点から、従来より長期契約を基本とし、調達先の分散をはかるとともに、発注方法や発注時期等の工夫に努めながら、原子燃料調達を行っています。また、長期的なウラン資源確保のため、2006年より、カザフスタン共和国のウラン鉱山開発プロジェクトへ投融資を行いました。さらに2008年から2009年にかけて、関西電力が出資する日豪ウラン資源開発(株)を通じて、オーストラリアにおいて、ウラン探査プロジェクトや事業化調査に参画しました。その他、2009年には、アレバNC社(フランス)の新規ウラン濃縮工場プロジェクトにも参画するなど、将来にわたる原子燃料の安定調達に努めています。



●オーストラリアのウラン鉱山開発現場



●関西電力のLNG輸送船「LNG EBISU」

調達チェーンの強化により、火力燃料の安定調達に努めています。

2012年5月、関西電力はオーストラリアのブルートLNGプロジェクトからのLNG受入を開始いたしました。同プロジェクトは関西電力が初めて権益を取得したもので、2012年以降の主要LNG調達源に位置づけるとともに、プロジェクトから得られる事業収益を新たな収益源の一つとして期待しています。また、調達先の多様化をすすめるため、非在来型ガスであるCBM由来のLNG購入契約を締結したほか、シェールガスを原料とするLNG等の調達検討もすすめています。一方、必要量を安定的に確保するため、関西電力初の自社LNG船として既に就航している「LNG EBISU」に加え、3隻の石炭輸送船「MAIZURU DAIKOKU」、「MAIZURU BENTEN」、「MAIZURU BISHAMON」を導入したほか、石油輸送船を追加で確保する等、燃料輸送体制の強化に取り組んでいます。このように燃料の生産・輸送・受入の各部分に関西電力が積極的に関与することで、調達チェーンを強化し火力燃料の長期安定確保に努めています。



■長期にわたって燃料の確保を支えるオーストラリア・ブルートLNGプロジェクト。